



京都府スーパーサポートセンターSSCラボにおいて、第6回公開講座が行われました。

日時 7月29日(金) 13:30~16:30
テーマ 聴覚障害児のきこえと支援
講師 愛知淑徳大学講師 中井 弘征 氏



昨年度好評をいただきました聴覚障害に関わる講座に今年度も府専門家チームであり聴覚障害教育の経験豊富な中井弘征先生をお迎えし、猛暑の中、保健福祉関係、保育園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等と聴覚障害の幼児児童生徒に関わる幅広い方々の御参加を頂き「聴覚障害児のきこえと支援」と題して公開講座を実施しました。

本講座では、新たに聴覚障害のある幼児児童生徒の担任となった教職員、関係者が聴覚障害について学び、体験学習を通して必要とされる支援について考えて頂く機会となることをねらいとし、幅広い受講者のニーズに応じて頂くために、中井先生にはまず初めに聴覚に関わる基礎的な知識として、耳のしくみ、難聴の分類、新生児聴覚スクリーニング検査について、詳細に御説明いただき、その中で、難聴の早期発見、早期療育と支援の大切さ、言語力を高めるために幼時期から育てたい力について話して頂きました。

また難聴に関する体験学習として、様々な教材や機器を使用して「読話体験」「難聴者の聞こえ方の体験」「難聴疑似体験」を行いました。「難聴疑似体験」ではグループに分かれ、何気ない話し合いの中でいかに難聴者がコミュニケーション上の不便さを抱えているか体験することができました。「ずっと話を追いかけ続けられないといけない」「内容把握に必死で会話を楽しむことができない」「周囲が楽しそうに会話する中で、居心地が悪く、どんな表情で居ればいいのか」など体験からの貴重な気づきを共有し、併せて、自身が担当する聴覚障害のある幼児児童生徒への支援のあり方について、体験を通して考え直すきっかけとなりました。



中井先生御自身の貴重な指導実践のVTRも数多く見せて頂き、和やかに優しく幼児と関わる中井先生の御指導の中に聴覚障害児の言葉の育ちと、その育ちを促す丁寧な関わりと支援を見ることができ、御参加頂いた方々が明日への実践に生かせる講座となりました。

<参加者アンケートより>

○感想（一部抜粋）

- ・ 聴覚障害児の支援について、普段学ぶ機会がないので話が聞けて良かったです。
- ・ 体験があったり、VTRがあったりと、とても分かりやすく、また難聴への理解が少しできたかなと思います。今後の支援にとっても参考になりました。
- ・ 実際に難聴の人がどんな状況におかれているのか体験しながら理解できたのが良かったです。また、言葉におけるつまづきも理解でき、良かったです。無意識に獲得し使用していると思いがちな言語について教えることは難しそうだなと感じましたが、丁寧に子どもの理解に合わせて教えていくことが大切だと感じました。